

港湾BCP (港湾の事業継続計画)

背景

港湾BCPの必要性が認識されたのは、阪神・淡路大震災により被災した神戸港の事例であるが、全国で策定の機運が高まったのは東日本大震災であった。

平成26年9月末現在、重要港湾以上の港湾において、既に港湾BCPが策定済みとなっている港湾は23港、全国の約半数が策定に向けて動いている状況となっている(図1参照)。

未着手	準備中	策定中	策定済	合計
(51%) 64	(13%) 16	(18%) 22	(18%) 23	(100%) 125

未着手：港湾BCP策定に向けて何も動いていない港湾
準備中：協議会設立準備など港湾BCP策定に向けて動いている港湾
策定中：協議会において検討が始まっている港湾
策定済：港湾BCPが策定された港湾

図1 港湾BCPの策定状況(平成26年9月末現在)

このような中、平成26年6月3日には「国土強靱化基本計画(閣議決定)」「国土強靱化アクションプラン2014(国土強靱化推進本部決定)」が決定された。

同アクションプランでは、重要港湾以上の港湾における港湾BCP策定率を平成28年度末までに100%にする、という重要業績指標(KPI)が設定されている。

港湾BCPの定義について

BCP(事業継続計画: Business Continuity Plan)という単語は、最近では、よくニュースなどにも取り上げられるので目にした方も多いと思うが、BCPのみならず、BCM(事業継続マネジメント)やBCMS(事業継続マネジメントシステム)などに発展している(詳しくは「事業継続ガイドライン第三版(平成25年8月内閣府)」http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kigyou/keizoku/sk_04.htmlを参照)。

港湾BCPにおいてはBCM及びそのシステム体系(BCMS)の概念を含むものとし、具体的には以下のように考えている。

「港湾の事業継続計画(港湾BCP)」

大規模地震・津波などが発生しても、港湾機能の低下を最小限に抑えるよう、「災害時の対応」や「平時の取り組み」について、港湾関係者が合意し策定した行動計画のこと。

港湾BCPの概要

港湾BCPは、「人命救助」や「施設被害の軽減」、「施設の復旧・復興」を目的とした従来の防災計画とは違い、「港湾物流機能の低下を最小限に抑えること」を目的としているのが特徴である。

災害時(=緊急時)に的確に動けるために(実効性)

シンプルであること

- 網羅的かつ詳細だとかえって使えない。
- 「伝わる」「理解できる」「覚えられる」「使える」ことが大事。

情報共有・体制の確立

- どうやって情報を共有するか。
- 現場で誰が、どういう意思決定をするか。

人材育成

- 教育や訓練の実施。
- 現場リーダーシップの育成。
- 対応を体で理解する訓練。

図2 港湾BCPに最も重要な3つのポイント

港湾BCPにとって一番重要なのは「実効性」である。どれだけ立派な対策を計画しても、災害時に適切に対応し、その効果が発現されなければ意味がない。

そのために、最も重要となるポイントは「シンプルであること」「情報共有・体制の確立」「人材育成」の3つと考えている(図2参照)。

まず計画書。分厚い計画書は、災害時に読む時間的余裕はなく、また情報量が多すぎると理解と行動を妨げるため、必ずしも適切であるとは言えない。従って計画書には、行動につながる必要最小限の内容を端的に分かり易く示す工夫が必要である。

次に情報共有。災害時には平時とは違う環境下で意思疎通を図らなければならない。例えば電話不通時の情報共有手段や、現場の体制・権限を予め定めておき、迅速な対応を図ることが重要である。

最後に人材育成。災害時には、臨機応変なイメージ力と実行力が求められるため、教育や訓練を繰り返し、個人の能力強化を図っておくことが重要である。

おわりに

国土交通省では、港湾BCPの策定支援として「港湾の事業継続計画策定ガイドライン(仮称)」を平成26年度内に作成する予定である。

その中で明記する予定であるが、港湾BCPは策定がゴールではない。教育や訓練を実施し、その都度見直しを重ね、徐々に港湾BCPの質を向上させていくためのスタートである。

そして、この平時の取り組みを継続していくことは、港湾関係者が互いを理解する機会ともなり、相互の信頼感に基づくネットワーク(ソーシャルキャピタル)醸成にもつながっていく。

そういう意味では、港湾BCP策定後にどのような取り組みを行ったのかという点も重要である。策定後、何年も見直されなかったり、名簿の更新だけだったりでは、効果はあまり期待できない。

この継続的な「平時の取り組み」こそが、災害対応における「決め手」になると考えている。